

家庭科、技術・家庭科学習指導研究委員会

一 テーマ

一人ひとりの子どもに生きる力を育む家庭科、技術・家庭科の学習指導のあり方

二 テーマ設定の理由

本委員会では、学習指導要領の趣旨である「生きる力」を「自ら伸びる力」ととらえ、この力をどのように定着させていくか、研究を重ねてきている。そこで、今年度も教材や題材展開、学習したことを生活で生かすためにはどうすればよいかを考えることとした。塩尻小学校の実践を中心に、また、教育課程研究協議会の授業からも、児童生徒の具体的な姿を通して学びながら研究を進めていくこととした。

三 研究の経過

第一回（5月）	研究テーマ決定、計画立案	教育会館
第二回（6月）	教育課程事前研究打ち合わせ	上田市立塩尻小学校
第三回（7月）	教育課程事前研究	上田市立塩尻小学校
第四回（8月）	教育課程午後の研修準備①	上田市立塩尻小学校
第五回（9月）	教育課程研究協議会	上田市立塩尻小学校
第六回（11月）	研究のまとめと次年度に向けて	教育会館

四 研究の内容

教育研究課程協議会において公開授業を行った、千野周教諭（上田市立塩尻小学校）による家庭科の実践を通して、一人ひとりの子どもに生きる力を育む家庭科、技術・家庭科の学習指導のあり方はどうあったらよいか研究を深めた。

1 研究テーマ

自分から生活の課題に気づき、よりよい生活の実現に向けて工夫する力の育成

2 研究テーマ設定の理由

前項にあるように、本校では児童が「表現する力」をさらに伸ばし、地域や社会と応答し合って社会自立できる力を養うことを願っている。家庭科の新学習指導要領には「生活をよりよくしようと工夫する資質・能力とは、家庭科の学習で育成を目指す資質・能力（「何ができるようになるか」）であり、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎として必要なものについて示した」とある。家庭科学習を通して、自立の基礎を養うことはそのまま本校で願っている児童の姿なのだと考える。

また、4月の児童の実態として、「自分と比べて、家族は家のことで時間をたくさん使っていて大変なのがわかった。少しでも家族が眠れる時間を増やせるようにしたい」や、「自分のものを片付けなさいと言われてもどうやったらいいかわからない」といった考えが見られた。この課題意識は、家庭科で大切にされている「日常生活の中から問題を見いだす」ことにつながると考える。学校の間での実践のみに終わらず、児童のこの課題意識が家庭の生活場面ともかかわった問いとなっていくことが必要と考える。

本研究をきっかけとして、学校全体の授業が児童の問いや課題意識を大切にしたものになるなど、新学習指導要領で目指している内容が具体化されるものにしたいと願い、本テーマを設定した。

3 研究内容

1 汎用的な能力の育成を目指す題材展開と問いかけ

「衣服のたたみ方しまいがわかりました」にとどまらず、「自分にとって大切な衣服を見極めて片付けに生かし快適に過ごしていきたい」という児童の姿を目指す。つまり、汎用的な能力ともいえる、学習指導要領の改訂で示された教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を意図して育てていく。

事例1（6年実施「私の、大切なもの」第4時）

教師は児童自身の衣服を扱う題材展開と教材化を工夫して、衣服の整理・整頓を通して生活の課題を解決するあり方を学べるように考えた。そして、児童が家庭で見つけてきた衣服に対して、「これをどうやって活用するか」や「捨てるか捨てないか」といった答えが限られる形ではなく、「置いたまま・しまったままにしないためにどうしたらよいか」のように問いかけて、幅広く考えが出されるようにした。

6学年児童のHさんの振り返りには、その具体が現れている。

ハンカチは何年後かに発見されるかもしれないが、
くつ下はこれから履こうと思う(たぶんだけれど)

同じようなものを買わない。いらぬものは寄付、ゆ
ずる、リメイクする。すっきり片付けるために大切なこと
をいつも思い出して、快適に過ごしたい。

購入の仕方に応用して考えている

自分に必要かどうかを判断して次に生かしている

「理解していること・できることをどう使うか(未知の
状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」
の育成)」

新品の衣服が活用されない状況を理解している
衣服の量や置き場を把握する大切さを理解している

ア「何を理解しているか、何ができるか
(生きて働く「知識・技能の習得」)

寄付やリメイクにより持続可能な社会を考えている
すっきり片付けてよりよい快適さを求めている

ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を
送るか(学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

Hさんの振り返りに凝縮されているように、整理・整頓を扱ったこの題材で児童は「整理・整頓の仕方を学んだ」のではなく、「整理・整頓を通して、自分の衣服との向き合い方や生かし方、自分にとって大切なものとは何かを考える大切さ」といったことを学んだといえる。

2 主体的な学びとして 児童が自分事として向き合うための教材化をする

事例2 (5年実施「わたしと家族の生活」第1時)

5学年のはじめに「わたしと家族の生活」を扱う際、児童が自分自身のことに引き寄せて生活課題を考えられるようにしようと考えた。

そこで、映画クレヨンしんちゃんから野原家の朝の一場面で忙しく動く様子を取り上げて同じような状況に自分や家庭を重ねられるようにした。また、炊事や洗濯、習い事など時間を多く割いている順にカードで並べ自分と家族を比べることで、家族の仕事が多いことやその苦勞に気づけるようにした。

もっとそうじをや
ってほしいと思っ
ていると思うから、が
んばりたい



児童は、「お母さんが大変だから、しんのすけくんが自分で顔を洗えばいいと思う」「自分でできることは自分でやればいい」「(自分の家族も) もっとそうじをやってほしいと思っていると思うからがんばりたい」というように、より具体的に自分の生活に引き寄せて課題や改善方法を自然に見つけ出していった。

3 対話的な学びとして ものとの対話、ひととの対話が起きやすい場面をつくる

事例3 (6年実施「私の、大切なもの」での家庭実践)

しっかり服と向き合っ
てみると、捨てなくて
もいいものがたくさん
あるんだなと思った

対話的な学びを意識してグループでの話し合いをしても、大切な気づきにつながらないことも考えられる。教師は、児童自身の持ちものとしての衣服に着目して「置いたままになっている衣服があるか」を問ひかけ、教師自身の同じ悩みを語ることで、「自分にとってこの服は、どこが気に入っているのか」をじっと見つめ向き合うだろうと考えた。Rさんは家庭実践の中でも一着に限らず服と向き合っているよさを書いてきた。家庭科の実践ではAさんへのアドバイスをしようといった架空場面を扱う展開が多いが、実際に児童自身のものを扱い、自分のものと向き合う場面を作り出したことで、ものとの対話が生まれ、友との対話にもつながっていくと考える。

4 深い学びとして 家庭科としての「見方・考え方」が広がる積み重ねとかかわりをつくる

事例4 (6年実施「私の、大切なもの」第3時)

私は白いスカートであまりよごしたくないから着なかったのだけれど、「白いスカートをせっかく買ったんだから着られなくなる前に着ないともったいない!」というMちゃんのアドバイスを聞いてとてもドキッとしました

教師は「誰でも片付けられる整理・整頓方法」を身につける方向ではなく、家庭科としての見方・考え方が交換されて学びが深まっていく展開を重視した。前述の6学年実践で「置いたままにならないためにどうするか」伝え合った後、Kさんが自分の白いスカートについて書いている。Kさんが「とてもドキッとしました」のは、自分にはない見方・考え方でのアドバイスをもらい、「確かに、きれいなまま使わずにおくより、着ることが大切にすることだ」という新たな見方・考え方にゆさぶられたのだらう。深い学びの鍵としての「見方・考え方」が広がるように、5学年の授業でも様々な視点に気づく展開を重ねていく。(資料参照)

捨てる前に、一度「ありがとう!」と言ってからその後に捨てれば、もたいてよい言葉 戒はく捨てられる!

5 児童の姿をもとにして、カリキュラムマネジメントに努める

事例5 (5年実施「登山学習」「これ買ってイーカ?」)

練習のカレー作りではコーンが多すぎたから、今日は小さい缶にするんです

整理・整頓を学ぶためには、まずは買う時点からできることを考えることも必要になる。6月から7月にかけて5学年は登山学習を進めており、材料の買い出しと時期を重ねて家庭科の調理実習や「じょうずに使おうお金と物」の学習をあてることで、ものの買い方が実体験とつながるようにした。児童は、学んだことを生かして多く買いすぎないように工夫しようとしていたり、アレルギー表示を見て材料を確かめたりできるようになっていた。

題材配列が完全に決まっているものではなく、児童の意識がつながるよう改善を図るように考えている。

6 人権同和教育の視点から児童の姿をとらえる

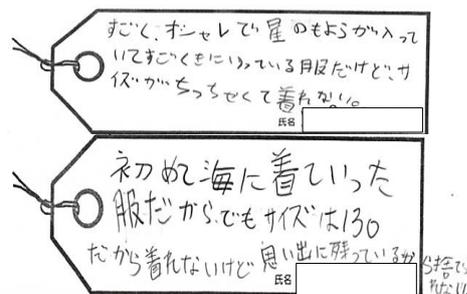
事例6 (6年実施「私の、大切なもの」第3時)

やっぱり思い出が残っているやつは捨てられない

前述の6学年授業で、Yくんは小さくなってあまり履けないズボンを手にしていた。「使えないもの・着られないものはすぐに捨てる」と部屋が片付く」という気づきが第1時で出されているので、効率だけを考えれば手放すべきという状況だった。教師は、「捨てるか捨てないか」ではなく「置いたままにならないためにどうしたらよいか」問いかけてアドバイスできる機会をつくった。Yくんは「初めて海に行った

ときに着ていた服だから捨てられない」と話し、Mくんは「それなら思い出としてとっておけばいい」とアドバイスをしていた。Yくんは安心した様子で、第4時のまとめに「(短いズボンは)非常服にした。(思い出がつまっているけど)全然着られないものはそく捨てる。やっぱり思い出が残っているやつは捨てられない」と書いた。

大切なのは、「どうやったら効率よく片付けられるのか」ではなく、「自分の思いや考えも大切にしていんだ」という存在を認めることだと考える。効率化を求められる社会にあって、自分や人のもつ価値観が認められることが、人権同和教育の視点としても大切にされるべきと考える。家庭科では、よりよい生活をもとめつつ、でもありのままを認められる授業展開のあり方を求めていきたい。



4 素材の教材化

- ・映像教材の発掘と活用…家族や家族生活をテーマとしたアニメやニュースから、児童の実態や意識につながりやすい素材を選び出し課題意識と具体場面につなげる。
- ・自分の衣服の活用…疑似体験ではないことが大切。衣服を通して、家庭の生活そのものを一人一人が学校の学習に持ち込むことができる。他人事ではない切実感が生まれる。
- ・タグづけとアドバイス…衣服と向き合う視点を整理しつつ、自分の思いや考えを視覚化し交換できる。
- ・家庭実践と実態調査を活用する…衣服選びや買い方など、一人一人の意識や実態を把握し、児童自身が意識するきっかけにしていく。

5 学習指導案

(1) 題材名「私の、大切なもの」

(2) 題材設定の理由

家庭科学習においては、児童自身の課題意識や日常生活での具体的な課題を取り上げることが少なく、児童の主体的な学びにつなげるのが難しい面があるように感じる。それは、家庭生活がまさしく家庭・地域で行われているために課題を共有することが困難だったり、家庭の状況・実態に大きく左右される内容が含まれていたりするからだと考える。その中であっても、「自分のことは自分でやるようにしたい。少しでも家族が眠れる時間を増やせるようにしたい」といった児童の課題意識を根本にして生活課題を取り上げたい。

そこで、衣服の整理・整頓に着目した展開を考える。一口に身の回りの物といっても、児童個人・家庭によって所有している物や環境はすべてが違い、そろって整理の仕方を考えることは難しい。しかし、衣服であれば用途も形も限られるため、どんな視点をもって選んでいくか整理・整頓の意図を共有しやすい。また、衣服は児童自身が最終的に着るかどうかを決められるはずだ。自分が決めるものであるというところに、家庭の仕事をお手伝いするという意識とは違う児童自身が主体となる学習、自立につながる学びがあると考えている。

さらに、家庭実践をふまえ、着られずにしばらくそのままになっている衣服に焦点を当てることで、物が整理・整頓されずにそのままになる理由にせまることができる。着られないほど小さくなってしまった場合や、似たものを買すぎている場合など様々な理由が整理されることで、購入時や使用時、処分・活用する時においてどのように衣服と向き合うかに個人の考え方が表れ交換されるだろう。以上のことから、本題材を設定した。

(3) 題材の目標（新学習指導要領）と評価基準

B 衣食住の生活

(6) 快適な住まい方

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。

イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、適切な住まい方を工夫すること。

観点別の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・衣服や身の回りの物に対して不用品を減らすことが片付けるために大切なことを理解している。 ・家庭の環境が様々なことを前提に、整理・整頓の仕方に工夫があることを理解している。	・片付けのために身の回りの不用品を減らすよう考え、着ないままの衣服がそのままになっていく理由と改善のあり方を考えている。	・日常生活で自分のできることを増やそうと衣服の整理・整頓に関心をもち、整理・整頓をしようとしている。

(4) 題材展開

時間	学習活動	指導	評価			題材の目標
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	<p>野原家の片付けにアドバイスしよう</p> <p>クレヨンしんちゃんの一場面を見て、どうして片付かないかについて気づきや改善のアイデアを交換する。</p>	<p>ストーリーの流れにそって象徴的な場面やセリフを揭示し、児童個人の気づきやアドバイスを直接加えていくことで、購入の仕方やしまい方、手放し方に問題があることをとらえられるようにする。</p>	<p>部屋が片付かない要素として、購入の仕方や捨てる物の選び方、自分で決める大切さがあることに気づいている。</p>			(6) ア(イ)
家庭実践	<p>家庭で衣服の片付け方の工夫を調べよう</p> <p>家庭では衣服をどのように工夫して片付けているか予想・発見・聞き取りして、方法を知る。</p>	<p>野原家の場面がわかる資料を使うことと、衣服にも注目して考えることで、家庭での整理・整頓の工夫の中でも物の減らし方やしまい方といった具体的な工夫に着目できるようにする。</p>	<p>各家庭での工夫が、購入の仕方やしまい方のどれをとっても違いがあることに気づく。</p>			(6) イ
2	<p>着ないままの衣服に意識を向けよう</p> <p>家庭実践の中でも、衣服を減らす工夫と課題にかかわって具体を考える。</p>	<p>家庭実践をもとにして片付けの工夫を交換した上で、着ないままでも処分していない衣服があることを取り上げ、すっきり片付けることへの課題がわかるようにする。</p>		<p>すぐには使わない・着ない服もなぜ片付けられないか意識して考えられるようになる。</p>		(6) ア(イ)
家庭実践	<p>置いたままになっている服をさがそう</p> <p>自分の私服で、しばらく着ていないのにダンスやクローゼットに入れたままの衣服を探す。</p>	<p>着ないまま捨てられずにいる教師の服に対してアドバイスしてみることで、自分にも着ないのに置いたままにした衣服があるか探せるようにする。</p>		<p>着ないままののに取り出しやすい場所にある自分の服を見直している。</p>		(6) イ
3 本時	<p>着ないままの理由をタグ付けしよう</p> <p>家庭から持ち寄った服が、どうしてダンスやクローゼットに置かれたままになるかを理由タグに書き、意見を交換する。</p>	<p>段階ごとの理由タグに書いて改善についても交換することで、購入、使用、処分・活用において自分が衣服について決めていくよさと、すっきり片付けるために処分もしていく必要を感じるようにする。</p>		<p>すっきり片付けるため、自分の衣服を大事に着たり処分したりできるよう意識して見ている。</p>		(6) ア(イ)

4	<p>自分としての衣服片付け方を整理しよう</p> <p>衣服の片付けで、自分自身がどんなことを大切に選んでいくかを改めて振り返り、実践のための要点を書き出す。</p>	<p>衣服の片付け方を通して、自分が視点や思いをもって考えられたことを振り返ることで、自分自身で決める大切さや自分にとっての大切なものを見極めるよさを感じられるようにする。</p>			<p>既習の整理・整頓の方法を使い、自分が主体となって衣服を管理しようと考えている。</p>	<p>(6) ア(イ)</p>
---	---	--	--	--	--	---------------------

(5) 本時案

①本時の主眼

野原家のリビングを見て、すぐ使わないものは手放すべきという考えをもった児童が、しばらく着ない自分の衣服がタンスや棚に置かれたままにならないためにどうしたらよいか考える場面で、衣服ごとの理由をタグに書いたり、購入、使用、処分・活用時に分けてアドバイスし合ったりすることを通して、すっきり片付けるためには着られる衣服を大事に使ったり、着られない衣服を処分や活用したりしよう意識して自分の衣服を見ることができる。

②本時の位置

前時：しばらく着ない衣服が処分しないままになる場合や理由があることに気づく。

次時：衣服の片付けで、自分がどんなことを大切にしているかを振り返る。

③指導上の留意点

- ・家庭や部屋の写真などはとらず、プライバシーに配慮する。
- ・児童の心身的な負担でない範囲で2点まで衣服を持参し、具体的に意見が交換できるようにする。
- ・衣服を処分することではなく、どうしたら使われないままにならないか考えることに重点をおく。

(6) 本時の展開

段階	学習活動	◎児童の意識 ・予想される児童の発言 学習課題	・教師の指導 評価	時間
導入	1 家庭実践をふまえて、本時の課題をもつ	<p>◎実際に家で調べてみたら、自分のタンスにもしばらく着ていない服が少しはあったな。</p> <p>・着なければ捨てるっていうのもったいないな。</p> <p>・どうして着ていないかは服によって違いそうだ。</p>	<p>・野原家のリビングの場面を取り上げ、着ないままにしている衣服があるかを家庭実践で見直してくることで、本時の課題意識につなげられるようにする。</p>	3

<p>展開</p>	<p>2 持参した衣服を長期間着なかった理由を段階ごとに書いて明らかにする</p>	<p>学習課題 置いたまま・入れたままにならないために、どうしたらよいか考えよう</p> <p>◎まだ新しいから着られるけど似たものがたくさんだ。同じ色と形ばかりだから着ていないんだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ色の服でも、自分で選んだ買ってもらったお気に入りの服はよく着ていると思うな。 <p>◎この服はかなり気に入って着ていたんだけど、少しだけ小さくなったしゴムがきついんだよね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これもよく着てたけどボタンがとれてから着ないで置いたままになっていたな。 <p>◎もう穴が開きそうだったからしまいこんであった。もったいないからとってあるんだよね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古くなってよれよれな服でも、家で着たらいいと思って捨てられないんだよね。 ・友だちに勧められて買った服もあるけど、あまり着ていないままでもったいない気がしてきたな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の選んできた衣服が、どうして長期間着ないままになっているかを考えることで、自分が何を大切に衣服を選んでいるか意識できるようにする。 ・「自分には小さいから」「気に入っているけど重くて着にくい」など視点ごとにタグに書き出していくことで、どんな理由で着なくなっているか明らかにできるようにする。 ・着なかった衣服が少ない児童は、平均的に着る服について気に入っている点を書くことで、衣服管理のよい面に気づけるようにする。 	<p>25</p>
	<p>3 どうしたら着ないままにならないか、友だちの理由タグにアドバイスして改善をさぐる。</p>	<p>◎新しい服だからって着ないままとっておいても、それがもったいないって考えはよくわかるな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い値段で買ってもらったからずっと着ないままだった。古くなる前に着るのも大事なんだね。 ・着やすく3日に1回は同じ服を着ている。今日持ってきた服も着ればいいのって言われるとそうだなって思うな。なんで着なかったんだろう。 <p>◎穴も開きそうだし古い服だけど、そのままにしておくよりも捨てたり雑巾にしたりすれば片付けが進むって教えてもらったのがよかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの理由タグを見渡してみると、もっと考えて買わないといけないと思った。自分で選ぶ、決めるが大切なものを選ぶことなのかも。 ・せまいクローゼットに無理やり押し込んであるけど、下の方にあつた着ていない服をちゃんと見ていないからまた増えていくのかもしれないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・購入時、使用時、処分・活用時のどこで改善できるかチェックできるふせんを使い、どうしたらその衣服が着ないままにならないかをお互いにアドバイスすることで、改善方法をさぐるができるようにする。 ・実はあまり気に入っていない服や、着心地の悪いことを理由にしている場合は、購入時に自分で選ぶ大切さに気づいている児童の助言を広げることで自分が大切にものを選ぶよさに注目できるようにする。 	<p>7</p>

<p>終末</p>	<p>4 授業を振り返る。</p>	<p>◎自分もしばらく着ない服をずっとクローゼットに入れたままにしているのがわかった。理由タグをつけてみると、どうして着なくなるかがよく見えてくるのがおもしろかったな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着なくなる服はいくつかあったけど、服によって理由はいろいろだった。修理したりアイロンしたりすればいいものもあるけど、小さくなってどうしようもないものもタンスに入れたままだったな。 <p>◎野原家のリビングを見て、いらぬものはすぐ捨てれば良いと思っていたけど自分もだいが持ったままだった。ゆずっても着てもらえないようなものは先のことまで考えてどうするか決めたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切にしていた服は着られなくなるぐらい小さくてもやっぱり捨てられないと思った。友だちが自分の気持ちもわかって真剣にアドバイスしてくれたからうれしかったな。 	<p>すっきり片付けるためには、自分の衣服を大事に使ったり着られない服を処分・活用したりできるように意識して見る大切さに気づいている (発言・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由タグを使って衣服一つ一つをよく見つめられたと感じている児童の様子を取り上げることで、すっきり片付けるためには自分のものがそこにあるわけを意識して見る大切さに気づけるようにする。 ・授業を通して、感じたこと、思ったことをワークシートに書き、伝え合うことで、自分の考えのよさに気づけるようにする。 	<p>10</p>
-----------	-------------------	--	---	-----------

(7) 授業の観点

- ・長期間着なかった衣服について、着なくなった理由タグづけやアドバイスし合う展開としたことは、児童が自分の衣服を大事に使ったり処分・活用したりできるよう意識して見ることにつながったか
- ・衣服の片付けに焦点を当てて教材化したことは、児童が日常生活から課題を見つけ追究していくことにつながったか

6 資料

< 5 学年の題材展開 >

整理・整頓の視点として
展開 (○活動など ・「予想される児童の言動」)

① 生活時間と家族の時間 (4月)

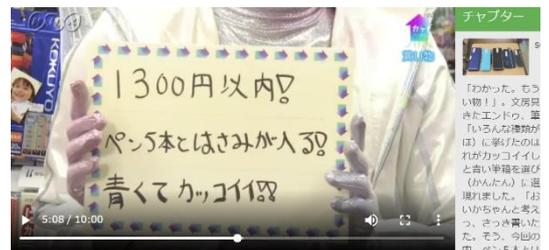
自分ができることは自分でしたい △お手伝いしよう

- 野原家の朝にアドバイスをする
 - ・ 洗い物と洗濯物と朝食を作るのが大変そう。
 - ・ しんのすけが自分で顔をあらえばいいと思う。自分から起きる。
 - ・ 自分が寝てる間や知らないところで、母さんは仕事とか準備で大変そうだと思います。

② これ買ってイーカ? (7月)

買うときから、ものを大切に

- NHK カテイカでの展開案で実践
 - ・ 本当に必要か考えて買うのがいいとわかった
 - ・ 自分でも表示をよく見て買うようにしたい



<https://www.nhk.or.jp/katei/kateika/>

③ ムダづかいを減らそう・自分の買い物と衣服（7月）

買ったのにムダにしてしまうことへアドバイス

○ちびまる子「ムダづかいを減らそう」で、まる子へアドバイス

○買い物や自分の衣服についてアンケート調査

- ・買う前に、本当に必要かどうか考えてから買うといい
- ・計画をたてて、お家の人も相談してから買うといい
- ・自分も、ムダな買い物をしないように気をつけたい



<https://www.hikaritv.net/video>

④ 夏服の一番手、私のお気に入り（8月）

お気に入りの衣服と向き合って特徴を見つめる

○その日に着る服は、自分で選んでいる。季節や暑さを考えて選んでいる、という調査結果から、自分が一番暑いときに遊びに出かける服を決め出す

- ・一番気に入っている服は昨日着たから洗濯してもらっているな
- ・どうしてそれがいいかって言われたら、色が気に入っている以外にも確かにありそうだな
- ・自分は色と長さだけじゃなくて、デザインと厚さも考えて選んでいたんだな

⑤ ランドセルを使った整頓（8月）

きれいにそろえて、たたむのが大切だ

○アニメクレヨンしんちゃんから、「おもちゃ箱はキツキツだゾ」で、気づいたことを交換

・形を考えてうまく組めば確かに小さな箱にも収まりそうだ



<https://www.tv-asahi.co.jp/shinchan/>

- ・おもちゃを減らさないとだめじゃないかな、しんちゃんには合わない方法かも

ランドセルが軽く感じるように、しかもきれいに入れられるとよさそうだな

○同じ量の中身が入ったランドセルが重心によって軽く感じる気づきと入れ方の違いから、どうしたらきれいに軽くなるように整頓して入れられるか考える

- ・中身が同じなのに軽く感じるってすごいな。ナップサックを使わなくてもいいなら楽かもしれない。
- ・軽く感じて、きたなく入れたらプリントを入れるのにも困るな。どうやったらいいかな。
- ・時間がたったプリントとか多すぎるティッシュも、減らしたら軽くなっていいんじゃないかな。

すきまが多く乱雑



重心

ムダはないが重い



重心

- ⑥ 野原家のリビング（9月）：題材展開を参照
- ⑦ 衣服とタグ付け（9月）：本時を予定
- ⑧ 私の片付け（9月）：題材展開を参照

<衣服のタグづけ：教師の場合>



五 研究の成果と課題

(1) 成果と課題

- ・家庭における生活課題から考えたいという視点を大切にすることができた。特に、プライバシーや実態の違いによって家庭での課題が見えない・共有できないが多かったが、衣服を扱うことで解決することができた。
- ・家庭の片づけ工夫などを実態調査によって共有できた。家庭実践としての位置づけで、保護者と児童が整理・整頓にかかわる視点で話す機会ともなった。
- ・本時の中心発問を「どうしたら持ち寄った衣服が置いたままにならないだろうか」としたことで、リメイクなどの活用方法や処分、購入の仕方にまで視点を広げて意見を交換する方向をつくることができた。
- ・映像や視覚資料を吟味して、生活課題にそった課題意識をもてる資料をいくつも取り上げることができた。
- ・リメイクしたいという考えが多かった反面、リメイクする技術や経験は足りていないので技術的に可能かどうかや処分することによる利点も共有するようにしたかった。

(2) 授業研究会での参加者感想から

- ・家庭に入っていけないことが多いのに、こんな題材を使ったことがすごい。
- ・衣服を持ち寄ることで、同じ土台ができてよかった。将来に生きる学習だった。
- ・児童によって衣服に思い入れがあるかに差があった。処分をどうやって意識させるか。
- ・リメイクの案が多かった。重要視したところを全体で共有したかった。

六 委員名簿

推進係	高見澤津久美 (川西小)		
研究委員	早坂 大成 (上田四中)	原 拓瑠 (第五中)	佐塚 大悟 (東部中)
	井出 みさき (第三中)	矢嶋 俊樹 (依田窪南部中)	宮下 香織 (南小)
	千野 周 (塩尻小)	小平 鮎美 (武石小)	緑川 信子 (本原小)